

米国のガイドライン、降圧目標値を緩和

米国内科学会と米国家庭医学会が、60歳以上の成人の降圧目標値に関するガイドラインを合同で策定し発表した。これまでの高血圧の境界値は、収縮期血圧で140mmHgと設定されていた。健康な高齢者の血圧コントロールを厳しくすると、便益よりも害のほうが大きくなるのが最近、いくつかの研究で示唆されている。今回のガイドラインは、2015年1月までに発表されたランダム化比較対照試験について医学文献データベースを検索し（MEDLINEは2016年9月までを検索）、系統的レビューを行い策定した。新たなガイドラインでは、60歳以上の成人では収縮期血圧150mmHg以上を治療開始の基準とした。このように目標値を緩和することにより、便益と害のバランスが適切になる。それ以上積極的な治療を行っても、得られる便益はほとんどないと考えられる。しかし、患者によっては目標値を下げるほうが良い場合もある。例えば、脳卒中の既往がある、あるいは心臓血管のリスクが高い60歳以上の成人では、収縮期血圧140mmHg未満を目指す必要があるとしている。

出典：Annals of Internal Medicine. Published online Jan 17, 2017;

doi: 10.7326/M16-1785